

## 近畿ブロック医療支援チームにおける福井大学の活動

福井大学では、6月24日から27日の間、近畿ブロック医療支援チームの福井大学の第二陣として、宮城県石巻市の大街道周辺地区の医療支援活動（避難所の巡回診療）を行いました。この大街道地区の避難所近隣の開業医や病院は、95%復旧しており、福井大学の診療が最後の巡回診療となる避難所が多かったのですが、避難している住民は、かかりつけ医に自ら通院しているなど、医療ニーズは多くはありませんでした。

これは、巡回診療が終了だと突然告げると住民が不安がるため、前々から、巡回診療の終了についてアナウンスされていて、混乱なく巡回診療を終了することができました。

衛生状態については、どの施設を見ても、冷房がなく扇風機で暑さをしのいでいるという状況でした。これから気温が高くなる時期を迎えることを考えると、暑さ対策について対策をとる必要性を強く感じました。また、避難所によっては、自衛隊の炊き出しが終了する予定で、おにぎりや、パンのみになるのは不安だと言う声も聞かれました。避難所周辺のがれきの撤去などが進んでいない避難所は、ハエが大量に発生しており衛生状態がとても悪く、殺虫剤などで対応できる量を超えています。

避難所の方の話を聞いていると、仮設住宅に入居したくても抽選に外れたり、家族構成を考えると仮設住宅は、手狭なため民間アパートを探しているなど、様々な理由で避難所生活をされておりました。大街道地区の巡回診療は終了しましたが、衛生面の改善など課題が多いと感じました。



(滋賀医科大学との引継風景)



(巡回診療準備の風景)